◆１回戦

◇１回戦

智弁学園	000	250	300	10
倉敷商	000	000	003	3

大舞台 見せた粘り

9回3点 伝統校の意地

第103回 全国高校野球選手権大会

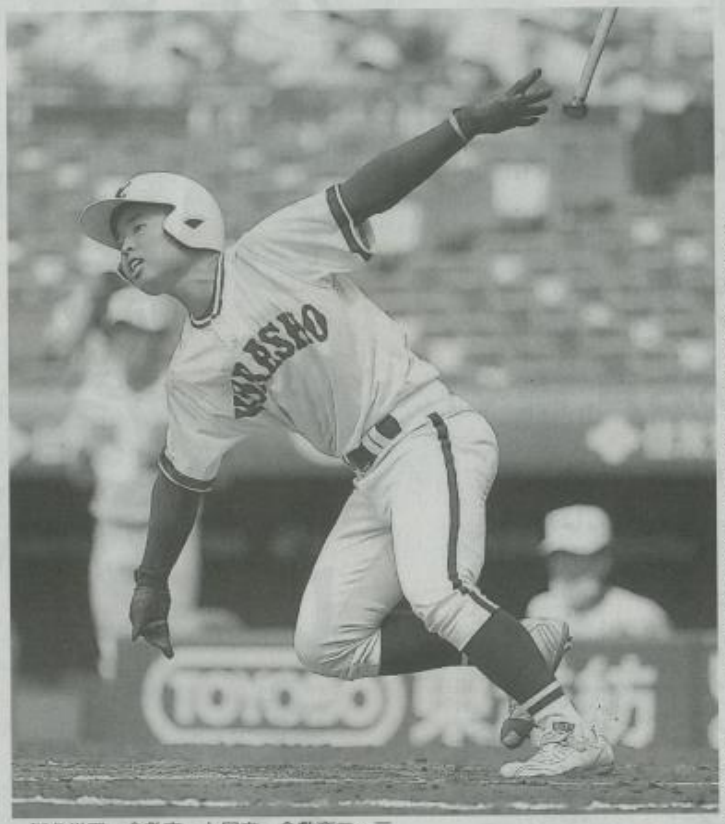
11日、阪神甲子園球場であった第103回全国高校野球選手権大会で、倉敷商は智弁学園に3－10で敗れた。点差を広げられたが、九回に4連打で追い上げた。大舞台で貫いた「粘りの野球」に、スタンドなどから温かい拍手が送られた。

⑰…試合が動いたのは四回。好投を続けていた先発三宅が相手4番に左翼フェンス直撃の二塁打を打たれ、先制を許した。三塁に走者を置いてエース永野にスイッチ。1人目は三振に仕留めたが、制球の乱れでピンチを広げ、スクイズで2点目を失った。

さらに五回はビッグイニングとされた。2四死球と4長短打などで一挙5点を失った。「制球が定まらず、練習不足が出た」と永野。七回にも3点を追加され、10点の差がついた。

打線も相手左腕のコーナーを突く投球に打ち取られ、八回まで二塁を踏めなかった。「予想を上回る球威だった」と梶山和洋監督は舌を巻いた。

倉商らしさが出たのは九回裏。「自分が出たら点が入る」と先頭の主将山下が、2本目の安打を中前へ。4番藤森もたたきつける打球で続いた。暴投で好機を広げ、品田の左前適時打でまず1点。続く西川が中前にはじき返して、さらに1点。送球の乱れに乗じて3人目が生還。後続を断たれたが、最後に伝統校の意地を見せた。



智弁学園―倉敷商　九回裏、倉敷商二、三塁、品田は適時打を放つ＝田辺拓也撮影

三塁側アルプス席で応援する倉敷商の吹奏楽部員ら

出し切れ！倉敷商

父と同じ場所 胸張って

三宅貫太郎投手

30年前に父が立った甲子園のグラウンド。倉敷商の先発を任された三宅貫太郎君(3年)は、まっさらのマウンドに一礼し、高ぶる心を落ち着かせた。

倉敷商OBの父・正城さん(49)は同校が1989年夏と90年春、甲子園に出たときのメンバー。夏は捕手をしていた。

「最高の舞台やった」。父が宝物のように語る話は、野球を始めた小学2年の時からいつも頭にあった。でも、自分の力で目指せる場所ではないのでは――。同じ倉商には入ったが、試合に出られるのかさえ自信が持てないまま、1年が過ぎた。

昨年春、コロナ禍で休校になった時。「キャッチボールするか」。珍しく父が誘った。軽く投げ合ううち、お互い力が入った。「座って受けてよ」。そう頼んでみたのが、秘密特訓の始まりだった。

自宅に近い公園で、父のアドバイスで投球を見直した。「ピンチでも厳しいコースで勝負しろ」。父は状況をよく見て気持ちを強く持て、と繰り返し説いた。今夏まで続いた特訓で球速は10キロ近くアップし、変化球もキレを増した。

背番号10を背負い、岡山大会では3試合に先発。甲子園でも「最も緩急を使える」と先発に抜擢され、多彩な変化球で的を絞らせなかった。四回につかまったが、梶山和洋監督が「100点」とたたえる堂々とした投球だった。

相手の校歌を聞きながら、悔し涙を指でそっとぬぐった。三塁側内野席から見守った父への思いを聞かれ、「(成長を)見せることができた」「楽しかった」と胸を張った。

正城さんは「自分と同じユニホームで甲子園に出てくれて感無量。平凡な選手も努力すれば出来る、と示せたんじゃないですか」と喜んだ。

試合後、息子から届いた「ありがとう」というLINEに、「ここまで連れてきてくれて感謝してる」と返信した。

(中村建太)

来年、勝ち上がってほしい

倉敷商・山下周太主将　初球から積極的に振っていこうと考えたが打てず、力がなかったと感じた。しっかり守れたのはよかったと思う。最後に少しは粘りを発揮できたが、勝ちきれずに悔しい。経験のある2年生が多いので、来年は甲子園を勝ち上がってほしい。

好機生かせず、力の差痛感

倉敷商・梶山和洋監督　完敗。力の差を痛感した。三回まではしっかり我慢できて、うちにも攻撃の好機はあった。そこでうまく攻めていれば、また違った展開になっていたのではと思う。私にとっても、この負けを一つのきっかけにしなければならない。

◆１回戦

倉敷商 中盤粘れず

崩れたシナリオ 5回痛恨5失点

智弁学園 10―3 倉敷商

ロースコアの接戦に持ち込み、後半勝負―。岡山大会の準々決勝から3戦連続で1点差ゲームをもろくも崩れた。

制した勢いに乗り、倉敷商の長山監督が描いたシナリオは0―2の五回に強力打線につかまったのはエース左腕永野だ。「大事な場面で制球が定まらなかった」。連続短長打と四球で無死満塁のピンチを招くと、押し出し死球を皮切りに連打を浴び、挽回は容易ではない5失点を喫した。相手打線は左打者6人が並び、投手優位かと思われたが、誰もが的確にミートした。無死一塁で大量点の足場を築いたのは1番岡島。追い込まれても難なく一塁打を逆方向の左翼線に運んだ。後続もつなぐ打撃に徹し、強引なスイングは皆無だった。

対照的に倉敷商打線は「左対左」のわなにまんまとはまった。同じく先発に6人をそろえる左打者は相手左腕が鋭くえぐる内角にのけぞり、外角の変化球を振らされた。「外に逃げるスライダーが球速以上の球威があった」と主砲藤森。打ちたいと気持ちばかりが焦り、芯で一向に捉えられない。初めて一塁を踏んだのが八回では到底、勝機は見いだせないだろう。

ただ、三回までは互角だった。昨夏の甲子園交流試合で快投した同学年の永野に近づこうと、成長を遂げた先発三宅が「1イニングずつ楽しんで投げた」と試合をつくった。四回に先頭から連打され、永野に託したが本人はやり切った思いだ。

これで岡山勢の通算甲子園大会戦績は64勝65敗。2年の藤森は「甲子園でプレーできたことを誇りに思い、もう一度この場所を目指す」。岡山代表として自星を積み上げる日を思い描き、再スタートを切る。（田井香菜子）

【智弁学園―倉敷商】5回表、智弁学園に無死満塁とされ、マウンドに集まる倉敷商ナイン＝甲子園（池上勝哉撮影）

9回に4連打の口火となる中前打を放つ倉敷商・山下

9回 意地の3点

主将「悔しさ大きい」

0―10の九回、倉敷商が見せたのは意地だ。「自分が出れば絶対に点が入る」。主将の責任感を胸に、先頭の山下は自らに言い聞かせ、中前に痛烈にはじき返す。後輩3人が安打で続き、スコアボードに「3」を刻んだ。

打席に入る前、同級生の加藤に「関西戦を思い出せ」と声を掛けられ、力が湧き出た。岡山大会の準々決勝は、1点を追う九回に先頭打者として出塁し、逆転勝ちの足場をつくった。この日も先頭で相手投手の代わりばなを見事に捉えた。

岡山大会は決勝で甲子園に導くサヨナラ打を放つなど打率6割超え。上り調子で乗り込んだ聖地でも2安打したが、3年生にもちろん達成感はない。「粘り強さを出せたのは最後だけ。悔しさが大きい」。コロナ禍で甲子園の舞台を失った1学年上の世代の思いも背負った夏は、初戦で幕を下ろした。（田井香菜子）

智弁学園		打	安	点
⑧	岡島	5	2	0
4	高岡	0	0	0
⑨	谷口	4	0	0
⑦	前川	4	2	1
⑤	山下	4	2	1
②	植垣	3	1	1
2	安藤	1	1	0
③	三垣	3	1	2
⑧	森田	4	2	4
④6	竹村	4	2	0
①	西村	2	1	1
H	併和	1	0	0
1	藤本	0	0	0
1	小畠	0	0	0
振球犠併残		6	6	4
		1	8	3
		5	1	4
		1	0	

倉敷商		打	安	点
⑧	雄龍	4	1	0
⑧	池上	3	0	0
⑤	山下	4	2	0
③	藤森	4	2	0
⑦	弓取	3	0	0
4	品田	1	1	1
⑨	西川	4	1	1
④	加藤	2	1	0
H7	今田	2	0	0
①	三宅	1	0	0
1	永野	1	0	0
H1	柏内	2	0	0
②	小田	2	1	0
H	大山	1	1	0
R	重見	0	0	0
2	長谷川	0	0	0
H	岸本	1	0	0
振球犠併残		5	1	0
		2	6	3
		5	1	0
		2		

投	手	回	打	安	責
西	村	8	29	6	0
藤	本	⅔	3	3	2
小	畠	1	4	1	0
三	宅	3⅔	13	4	2
永	野	5	29	10	8
柏	内	1	3	0	0

▽１回戦

智弁学園（奈良）
000 250 300 | 10
000 000 003 | 3
倉敷商（岡山）

▽三塁打　岡島▽二塁打　山下（智）岡島、三垣▽失策　竹村▽暴投　藤本
▽試合時間　2時間10分

【評】倉敷商は中盤の大量失点で流れを手放したのが痛恨だ。０―０の四回に２点を先制されると、五回は四回途中から継投したエース左腕永野が打者一巡の猛攻に遭い５失点。制球に苦しみ、甘い球を痛打された。打線は的が絞れず、八回まで６安打で無得点。九回に先頭山下の中前打からの４連打などで３点返したが点差が大きすぎた。

智弁学園は打撃がシャープで14安打10得点。五回は植垣、三垣の連続短長打やスクイズで大勢を決めた。８回を投げた先発左腕西村は緩急巧みにコースを突き、打たせて取った。

（田井香菜子）

◆開会式

倉敷商ナイン胸張り堂々

開会式の入場行進で、9年ぶり11度目出場の岡山代表・倉敷商ナインは胸を張り、堂々と歩を進めた。

従来はグラウンドを1周していたが簡素化され、外野に整列した後、内野に向かって前進する形で行われた。岡山大会の優勝旗を掲げた山下周太主将（3年）を先頭に選手18人が、聖地の芝を踏みしめ、11日の1回戦へ士気を高めた。「グラウンドに入った瞬間、鳥肌が立った」と三宅貫太郎投手（3年）。昨夏の甲子園交流試合はベンチ入りできず、スタンドで応援していただけに感激した様子で話した。

1回戦は今春のセンバツ8強の智弁学園（奈良）とぶつかる。山下主将は「これから始まるんだ、という気持ちになった。チームのコンディションは良い。全力で勝ちにいく」と意気込んだ。

ナインは開会式後、尼崎市内の球場で約2時間、最終調整した。

（田井香菜子）

開会式で行進する倉敷商ナイン

◆大会前記事

倉敷商

どんな展開でも勝つ

第103回全国高校野球選手権大会に9年ぶり（11度目）に出場する岡山代表の倉敷商は11日、今春のセンバツで8強入りした奈良代表の智弁学園（2大会連続20度目出場）との1回戦に臨む。対戦を前に倉敷商・梶山和洋(34)、智弁学園・小坂将商(44)の両監督に勝負のポイントや抱負を聞いた。

（田井香菜子）

智弁学園

点を取り主導権握る

あす対決 両監督に聞く

―相手校の印象は。

倉敷商・梶山　投打に力があるチームだ。特に打線は（奈良大会打率6割超の）1番前川君、4番山下君ら、どの打者も長打力だけでなく、変化球を呼び込んで逆方向に打てる粘り強さを備えている。

智弁学園・小坂　練習試合は今まで何度かさせてもらい、きっちり野球をする公立校というイメージだ。

―警戒している選手は。

梶山　打線はもちろん、投手も豊富。球速以上に球威がある左の西村君、角度のある右の小畠君に加え、腕の振りが良い左腕藤本君もいる。左打者が多いうちに対して藤本君の先発もあるのでは。

小坂　（エース左腕の）永野君。ゲームをちゃんとつくれる、完成されたピッチャーだ。右の三宅君もいる。

―どのような展開に持ち込みたいか。

梶山　強力な相手打線に対し、どれだけ失点を減らせるかがポイントで投手陣に期待するところは大きい。五回終了時に0―1、1―2くらいなら勝機はある。攻撃面では隙を突いて得点していきたい。

小坂　打線をつないでしっかり点を取る野球をし、常に主導権を握りたい。ずっと主力で打っている前川、山下の活躍が鍵になる。投手では小畠の調子が良く、先発もあり得る。

―重要な初戦に向け、意気込みを。

梶山　互いに緊張する中での戦い。選手には地に足を着け、普段通りの野球ができた方が勝つんだと伝えている。どんな展開になろうと最後には勝つ。そういう試合をしたい。

小坂　3年生中心のチーム。相手どうこうではなく、3年生がしっかりまとまって戦い、構えずに攻めてくれれば。一戦必勝で臨む。

◆大会前記事

夏の聖地で旋風を

大会第２日 智弁学園と激突

9年ぶり11度目の夏の甲子園で活躍を誓う倉敷商ナイン

9年ぶり11度目

第103回全国高校野球選手権大会は9日、兵庫県西宮市の甲子園球場で開幕し、岡山代表の倉敷商が9年ぶりに出場する。岡山大会では伝統の粘り強さを発揮し、準々決勝からの3試合は甲子園経験校との激闘をいずれも1点差で制した。新型コロナウイルス感染症の拡大で中止となった昨夏を経て、2年ぶりに開催される晴れ舞台でもしぶとく戦い抜く。

強力打線が看板の山陽と激突した7月25日の決勝は点の取り合いとなった。5－6の七回に主将山下の適時打で試合を振り出しに戻すと、同点の九回は無死満塁から再び山下がサヨナラ打を放ち、歓喜の瞬間は訪れた。

大会を通じて際立ったのは勝利への執着心だ。関西との準々決勝は1点を勝ち越された直後の九回に逆転、準決勝の創志学園戦は1－2の八回に3連打で2点を奪い、最後は3－3の延長十一回、永野の中越え二塁打でサヨナラ勝ちを決めた。

1年秋からエースナンバーを背負う左腕永野は4試合（計26回）に登板。本調子ではなかったものの、準決勝と決勝は一人で計323球を投げ抜き、栄冠の立役者となった。攻撃陣も1番雄龍、3番山下らを中心にこの二番で畳み掛け、山陽の大槇ら好投手を攻略した。

出場を決めていた昨春のセンバツはコロナ禍で幻になった。昨秋と今春の県大会で頂点に届かなかったチームは先輩の無念を晴らすべく、就任2年目の稲山監督の下、鍛錬を重ねて成長。全国選手権では県内最多タイとなる11度目の代表切符をつかみ取った。

過去最高に並ぶ8強入りを果たした2012年以来の甲子園。初戦は大会第2日第1試合（10日午前8時開始予定）の1回戦で智弁学園（奈良）とぶつかる。創部90年の節目を迎えた「夏の倉商」が、強豪を相手に聖地で復活を告げる。

（田井香菜子）

はつらつプレー期待

川井敏之校長　岡山大会では一戦一戦ごとに力をつけ、想像以上の粘り強さで優勝した。倉商生としてのプライドを持ち、高校球児らしいはつらつとしたプレーを期待する。支えてくださる多くの方々への感謝を胸に、甲子園では「至誠剛健」の精神で勝利をつかみ取れ。

倉敷商の沿革

1912年、倉敷町立倉敷商業学校として開校。倉敷至誠高への校名変更を経て、53年に現校名に改称した。校訓は「至誠剛健」。

31年に創部した野球部の甲子園出場は春夏通算15度目。夏は89年と2012年の８強が最高で、08～10年は３年連続で出場した。ＯＢに故星野仙一氏や岡大海（ロッテ）らがいる。現部員は84人。

◆大会前記事

第103回全国高校野球選手権大会は9日、甲子園球場で開幕し、9年ぶり11度目出場の倉敷商（岡山）は大会第2日第1試合（10日午前8時開始予定）の1回戦で、センバツ8強の智弁学園（奈良）と対戦する。2年ぶり開催の晴れ舞台に臨むベンチ入り18選手を紹介する。丸数字は背番号、学校名は出身中学。

晴れ舞台に臨む倉敷商　ベンチ入り18選手紹介

①永野　司投手　1年秋から背番号1を付けるエース左腕は「自分が勝利を呼び込む」。直曲球に切れがあり、何事にも動じないマウンド度胸、スタミナが大きな武器だ。左打ち。173㌢、64㌔。倉敷西中。3年。

②小田　壮太捕手　強肩の2年生は「投手の良さを最大限に引き出すリードを心掛ける」。岡山大会決勝では課題だった打撃で2安打し、チームの勝利に貢献した。右投げ右打ち。177㌢、69㌔。倉敷西中。

③藤森　旭心一塁手　フルスイングがモットーの左のスラッガーはチャンスに強い。「いつも通りの力を出し、全国でどこまで通用するか試したい」と屈託なく笑う。右投げ。176㌢、74㌔。吉備中。2年。

④加藤　大将二塁手　161㌢、60㌔の小柄な3年生はこの夏、堅実な守備を披露し、レギュラーを勝ち取った。「ベンチ外の仲間の思いも背負い、長い夏を過ごす」。バントなど小技も得意。右投げ左打ち。新田中。

⑤山下　周太三塁手　飾らない人柄で部員84人をまとめる主将。岡山大会決勝ではサヨナラ打を放った。頼りになる3年生は「甲子園でもチームのための打撃をする」と誓う。右投げ左打ち。176㌢、76㌔。総社中。

⑥池上　正純遊撃手　「どんな打球も泥くさくアウトにしてみせる」。チーム一の守備力を誇る2年生は正確なスローイングに自信あり。打撃では小技も使いこなす。右投げ左打ち。171㌢、64㌔。総社中。

⑦弓取　将大左翼手　シャープな振りが目を引く左打者。「1球も無駄にせず、ミート力を高めてきた」と黙々とバットを振り、岡山大会は準決勝から5番を担った。左投げ。166㌢、64㌔。総社中。3年。

⑧雄龍　人志中堅手　長打力と確実性を備えた2年生の切り込み隊長で、固め打ちも多い。「積極的に振る姿勢でチームに勇気を与えたい」。走塁も抜け目がない。右投げ左打ち。176㌢、76㌔。香和中。

⑨西川　恭輔右翼手　185㌢、74㌔。体格に恵まれた右の強打者でバットコントロールも巧み。幼少の頃からの阪神ファンは「憧れの甲子園で自分らしくプレーしたい」と目を輝かせる。右投げ。味野中。2年。

⑩三宅貫太郎投手　制球力が売りの3年生右腕。130㌔台中盤の直球や変化球をコースに投げ分け、ゴロの山を築く。「実力を発揮できれば渡り合えない打者はいない」。右打ち。178㌢、66㌔。倉敷南中。

⑪柏内　翔太投手　自慢のカーブなどさまざまな変化球を左腕から繰り出し、打たせて取る。「どんな場面でも明るくチームを引っ張る」とマウンドでは笑顔を貫く。左打ち。175㌢、70㌔。御南中。2年。

⑫長谷川隼斗捕手　難しいワンバウンドも体を張って止める。「試合に出なくてもチームの勝利が第一」。ブルペンでは投手をリラックスさせる声掛けに心を配る。右投げ右打ち。168㌢、62㌔。連島中。3年。

⑬大山　洸司内野手　冬場はベンチプレスで上半身をパワーアップした。「出るならば代打。1球にこだわる」。長距離砲だが、場面に応じてシュアな打撃も心掛ける。右投げ右打ち。173㌢、81㌔。倉敷東中。3年。

⑭重見　健仁内野手　相手投手の癖や隙を見抜く洞察力と的確な判断力を持つ貴重な代走要員。「一つでも先の塁を狙い、得点につなげたい」と貪欲な姿勢を崩さない。右投げ右打ち。167㌢、62㌔。味野中。3年。

⑮山本　凌大内野手　三塁コーチを担当。岡山大会でも相手野手の位置取り、動きをきっちりと把握し、冷静な判断を見せた。「甲子園球場でも自分の役割を果たす」。右投げ左打ち。168㌢、62㌔。美作中。3年。

⑯品田　祐希内野手　球際の強さと正確な送球に定評がある2年生は「ピンチの場面でチームを救うような守備をしたい」と意気込む。勝負強い打撃にも期待がかかる。右投げ右打ち。170㌢、70㌔。玉島西中。

⑰今田　芳稀外野手　50㍍6秒1。チーム一の俊足を誇る3年生は守備範囲の広さに加え、遠投100㍍の強肩も自慢。「ノーエラーは当たり前。常に全力プレーを心掛ける」。右投げ右打ち。173㌢、65㌔。石井中。

⑱岸本　空知外野手　ベンチから外野まで届く大きな声は「チームで一番」と自認する。盛り上げ隊長の2年生は「出番が来ればポジティブ思考で思い切りよくバットを振る」。右投げ右打ち。172㌢、78㌔。高陽中。

◆大会前記事

全国高校野球　オンラインで組み合わせ決定

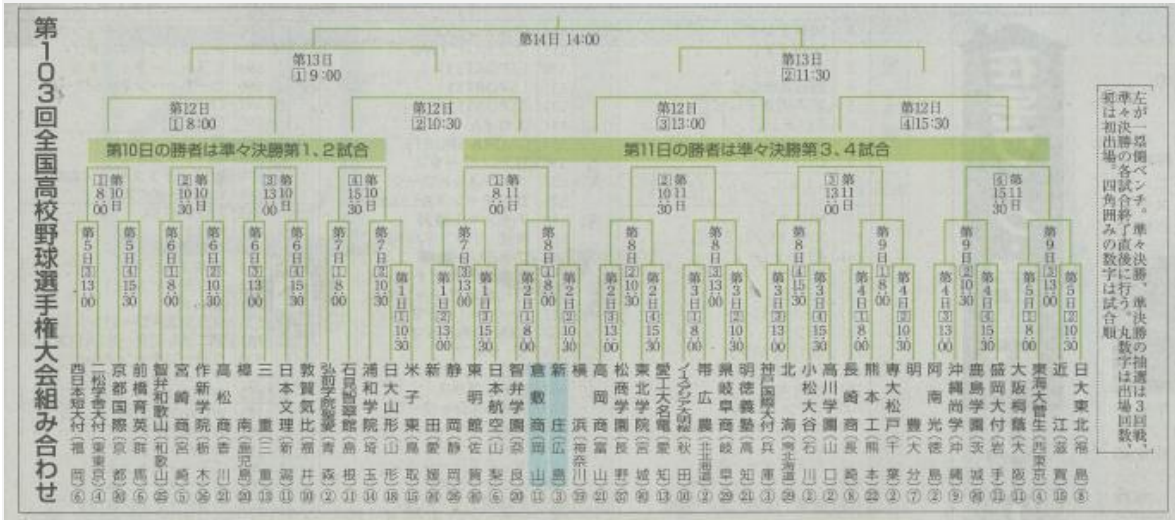
第103回全国高校野球選手権大会（9日開幕・甲子園）の組み合わせ抽選会は3日、オンライン形式で行われ、出場49校の初戦の対戦カードが決まった。郷土勢はいずれも大会第2日の1回戦から登場し、9年ぶり11度目出場の倉敷商（岡山）は第1試合で今春の選抜大会8強の智弁学園（奈良）、春夏連続出場の新庄（広島）は第2試合で横浜（神奈川）とぶつかる。（1面関連）

新型コロナウイルスの感染対策のため、出場校の主将がリモートで参加した。開幕試合は日大山形―米子東（鳥取）。選抜で準優勝した明豊（大分）は第4日の第2試合で専大松戸（千葉）と対戦する。春夏連覇を達成した2018年以来の夏の甲子園に挑む大阪桐蔭は、第5日の第1試合で選抜8強の東海大菅生（西東京）と当たる。

第3日第3試合の神戸国際大付（兵庫）―北海（南北海道）は、選抜の開幕試合と同じ顔合わせとなった。

選手宣誓は小松大谷（石川）の木下仁緒主将が務める。春は観客を制限して実施したが、今大会は一般客への入場券販売は行われない。スタンドへの入場は学校関係者に限られる。

第103回全国高校野球選手権大会組み合わせ



左が一塁側ベンチ。準々決勝、準決勝の抽選は3回戦、準々決勝は直後に行う。丸数字は出場回数、四角囲みの数字は試合順

倉敷商 食らいつく

郷土勢展望

エースの左腕永野が軸の倉敷商が、2大会連続20度目出場の強豪・智弁学園に挑む。ポイントはいかに失点を抑え、食らいつけるかだろう。

永野は球の出どころが見えづらいフォームから140キロに迫る直球とスライダー、チェンジアップなど多彩な変化球を投げ分ける。スタミナも十分で試合終盤になっても球威が落ちないのも魅力だ。

智弁学園の打線は強力で、奈良大会5試合で計55安打を放ち47得点。チーム打率は4割7厘をマークした。永野は、制球良く外角を突いた昨夏の甲子園交流試合の仙台育英（宮城）戦のような投球ができれば、そう点は取られないはずだ。守備陣の踏ん張りも必要になる。

倉敷商の打線も得点力はある。岡山大会のチーム打率は3割8分8厘で、好機でつながるのが特長。リードオフマンの雄龍がチャンスを広げ、打率6割4分3厘の山下ら中軸は勝負強い。智弁学園の左腕西村、右腕小畠ら力のある投手陣に対し、小技や機動力も絡めて攻めたい。

春夏連続出場の新庄は、神奈川大会でチーム打率4割6分9厘の横浜とぶつかる。秋山、花田の左右両投手に加え、この春台頭した左腕四井ら投手陣が粘れるかが鍵になる。（田井香菜子）

倉敷商 抑えたい失点

新庄 投手陣の粘り鍵

初戦、強豪智弁学園に「挑戦」

9年ぶりに夏の聖地を踏む倉敷商の1回戦の相手は2大会連続20度目出場の強豪・智弁学園。梶山監督は「何とか食らいつき、終盤にチャンスをつかめれば」と抱負を語った。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今春の選抜大会に続きオンライン形式で抽選会を実施。49校中12番目に登場した倉敷商の山下主将は「35」の札を選び「4番B」へ。その後、智弁学園が陣に入り、対戦カードが決まった。

智弁学園はベスト8入りした選抜の1回戦で大阪桐蔭の投手陣を攻略するなど強打が持ち味。一方の倉敷商は夏の岡山大会の準々決勝から3戦連続で1点差ゲームをものにしており、山下は「自分たちは」最後まで粘り強く戦えるチーム。挑戦者としてやっていく」と決意を新たにした。

阿校は宿舎が同じで、主将の名字がともに山下。「縁がある」とコメントした智弁学園の山下主将は「（倉敷商は）良い投手がいて勝負強い。目標の日本一に向けて一つずつ勝っていく」と意気込んだ。（田井香菜子）

対戦が決まった倉敷商の山下陽輔主将（右）と智弁学園の山下陽輔主将＝3日（代表撮影）

大会展望

大阪桐蔭、明豊が軸

投打にレベルの高い大阪桐蔭と今春の選抜大会準優勝の明豊が総合力でリード。春夏連覇を狙った東海大相模（神奈川）が新型コロナウイルスの集団感染で地方大会を辞退し不在のなか、この2校を軸とする優勝争いが予想される。

大阪桐蔭は主将花田、花田らが打線の中心だが、どこからでも得点が期待できる。エースのサウスポー松浦の他にも安定感のある右の竹中ら投手陣の層が厚い。

選抜大会の初戦では智弁学園に初戦敗退を喫したが春の近畿大会決勝では雪辱。大阪大会は接戦を勝ち上がった。

まずは1回戦で対戦する選抜大会8強で、高い攻撃力を誇る東海大菅生打線を封じたい。

明豊は投手陣が充実している。京本、財賀、太田の3本柱は大崩れしない。大分大会で打率4割5分の宮崎らを擁する打線も脅威となる。

帯広農（北北海道）と当たるノースアジア大明桜（秋田）は、150キロを超える速球を武器とする風間の投球に注目が集まる。

春夏通じて初出場の東北学院（宮城）、鹿島学園（茨城）、東明館（佐賀）はいずれも実力校との初戦で、聖地で本領を発揮できるか。

智弁学園の横顔

春夏合わせて34度目の出場で春は2016年に優勝、夏は1995年の4強が最高。強力打線を看板に奈良大会は5試合中、準決勝までの4試合でコールド勝ちした。打率6割超の1番前川を筆頭に上位から下位まで切れ目がない。球に切れのある西村、身長185センチから投げ下ろす小畠の左右の二枚看板をはじめ投手陣も充実している。

東西の実力校対戦

○…東西の実力校が第5日の第1試合でぶつかる。2018年に2度目の春夏連覇を達成している大阪桐蔭は、今春の選抜大会ではまさかの初戦敗退。大阪大会も接戦をものにして勝ち抜いただけに、池田主将は「粘り強さを甲子園でも出して初戦に勝ち、勢いづいて日本一を取りたい」と意気込む。

一方の東海大菅生も、選抜大会の準々決勝は中京大中京（愛知）に完敗した。栄主将は「自分たちの足を使った野球で夏は日本一を目指す」と譲らなかった。

日本一へ意欲

○…今春の選抜大会で準優勝の明豊は、1回戦の相手が同じく春夏連続出場の専大松戸に決まった。幸主将は「投打に隙のないチーム」と千葉代表を警戒しながらも「春の悔しさを思い出しながら、攻守に隙をなくそうと練習してきた。全力プレーで日本一を勝ち取りたい」と、頂点への意欲を隠さなかった。

◆大会前記事

倉敷商「全力プレー」

甲子園出場壮行式 ナインが健闘誓う

第103回全国高校野球選手権大会（8月9日開幕・甲子園）に岡山県代表として8大会ぶり11度目の出場を決めた倉敷商の壮行式が30日、倉敷市白楽町の同校体育館であり、ナインが健闘を誓った。

生徒らの拍手の中、入場する倉敷商ナイン＝倉敷商高

生徒と教職員の拍手の中、ベンチ入りメンバーら約20人が登壇。川井敏之校長は「誇りと自信を持って戦ってほしい」、生徒会の坂本夏純副会長は「つらい練習に取り組んできた皆さんを岡山から応援している」と激励した。

式では選手一人一人の名前などを読み上げ紹介。山下周太主将（3年）は「全力でプレーし、多くの人に感動を与えたい」と抱負を述べた。

新型コロナウイルス対策として、3年生と教職員計約300人が出席し、1、2年生は教室のモニター中継で見守った。

組み合わせ抽選会は8月3日にオンラインで行われ、チームは7日に大阪市内の宿舎に入る。同大会は昨年、新型コロナの影響で中止となり、開催は2年ぶり。（西平亮）

甲子園へ軽快な動き

倉敷商ナイン練習再開

第103回全国高校野球選手権岡山大会で頂点に立った倉敷商ナインは28日、8大会ぶり11度目となる夏の甲子園（8月9日開幕）へ向け、練習を再開した。選手たちは軽快な動きで練習をこなし、晴れ舞台での勝利へ決意を新たにした。

2日間の休養を挟み、倉敷市内の野球部グラウンドで始動。ウオーミングアップの後、シートノックやバント練習に励んだ。ノックでは痛烈な打球に勢いよく飛びついたり、難しいバウンドも軽やかに処理したりした。

「1歩目が遅い」「捕る時に球をしっかり見て」と互いに声を掛け合うなど約3時間の練習は終始活気に満ちていた。

梶山監督は「岡山大会で課題が残ったバントや走塁、守備を再び突き詰め取り組んでいく」と今後の強化ポイントを挙げた。山下周太主将は「きようからもう一度気持ちを入れ直していく。一回り成長した姿を甲子園で見せたい」と引き締まった表情で話した。

組み合わせ抽選会は8月3日、オンラインで行われる。（田井香菜子）

夏の甲子園に向けて再始動し、ノックで汗を流す倉敷商ナイン＝倉敷商高野球部グラウンド

力発揮して

OB連盟が激励金

岡山県内の高校野球部出身者でつくる県高校OB野球連盟は28日、全国高校野球選手権大会に出場する倉敷商に激励金を贈った。

役員4人が倉敷市内で練習中のナインを訪問。岡山東商OBの綾野富夫会長が「岡山大会では1試合ごとに強くたくましくなっていた。甲子園でも力を遺憾なく発揮してほしい」と述べ、梶山和洋監督に激励金を手渡した。梶山監督は「結果を出さなければと改めて感じる。勝つことで期待に応えたい」と話した。

同連盟は春、夏の甲子園の県代表に会員の浄財を寄付している。（田井香菜子）

梶山和洋監督（中央左）に激励金を手渡す綾野富夫会長

◆大会前記事

ときめき

夏の甲子園に導いた
倉敷商監督

梶山 和洋（かじやま かずひろ）さん

選手の成長 予想超えた

甲子園出場を決め、教え子が誇らしげに校歌を響かせる傍らで両肩を震わせ続けた。「指導者にできることなんて限られる。選手はこちらの予想をはるかに超えるスピードで成長してくれた」。25日の全国高校野球選手権岡山大会決勝で劇的なサヨナラ勝ち。一戦ごとにたくましさを増したナインの姿に男泣きした。

「若さと（野球を見る）目は負けない」。情熱派の34歳は今大会中、一つ一つのプレーに感情をあらわにし、選手たちを鼓舞した。一方で対戦校の戦力分析には余念がなく、準々決勝から3戦連続で1点差ゲームを制するなど相手に応じた戦略で攻守にしぶとく戦った。

倉敷商のOB。現役時代は春夏計7度の甲子園出場に導き、戦術家として知られる名将・長谷川登元監督の下、主将で三塁手を務めた。松山大卒業後、玉野商などを経て2017年、母校に赴任。身に付けた〝長谷川野球〟が指導の根幹にある。

監督に就任したのは19年夏。「苦しいことの方が多かった」。初めて率いた世代は、春のセンバツ出場を決めながらコロナ禍で幻になった。選手の無念さを痛いほど感じながら「戦う場がある限り、倉商のユニホームを着て負けることは許されない」と言い続けた。その思いに応え、チームは夏の独自大会で岡山の頂に立ち、甲子園交流試合で仙台育英に快勝した。

県内の勢力図は近年、私学が優勢で公立校が夏の聖地を踏むのは13年の光南以来。「公立私立という意識はない」と前置きしつつ「公立校に活力を与えられるのならばその役目は買って出たい」と意欲を語る。

商業科教諭。倉敷市内の自宅で妻、娘と3人暮らし。

（田井香菜子）